

弥陀ヶ原の火山活動解説資料（平成 29 年 1 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

立山地獄谷では以前から熱活動が活発な状態が続いています。2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1）

瀬戸蔵山西監視カメラ（弥陀ヶ原の西約 14km）による観測では、地獄谷からの噴気の高さは概ね 200m 以下で経過しています。

・地震や微動の発生状況（図 2）

弥陀ヶ原近傍を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過しています。火山性微動は観測されていません。



図 1 弥陀ヶ原 地獄谷からの噴気の状況
（1 月 26 日、瀬戸蔵山西監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧できます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 2 月分）は平成 29 年 3 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

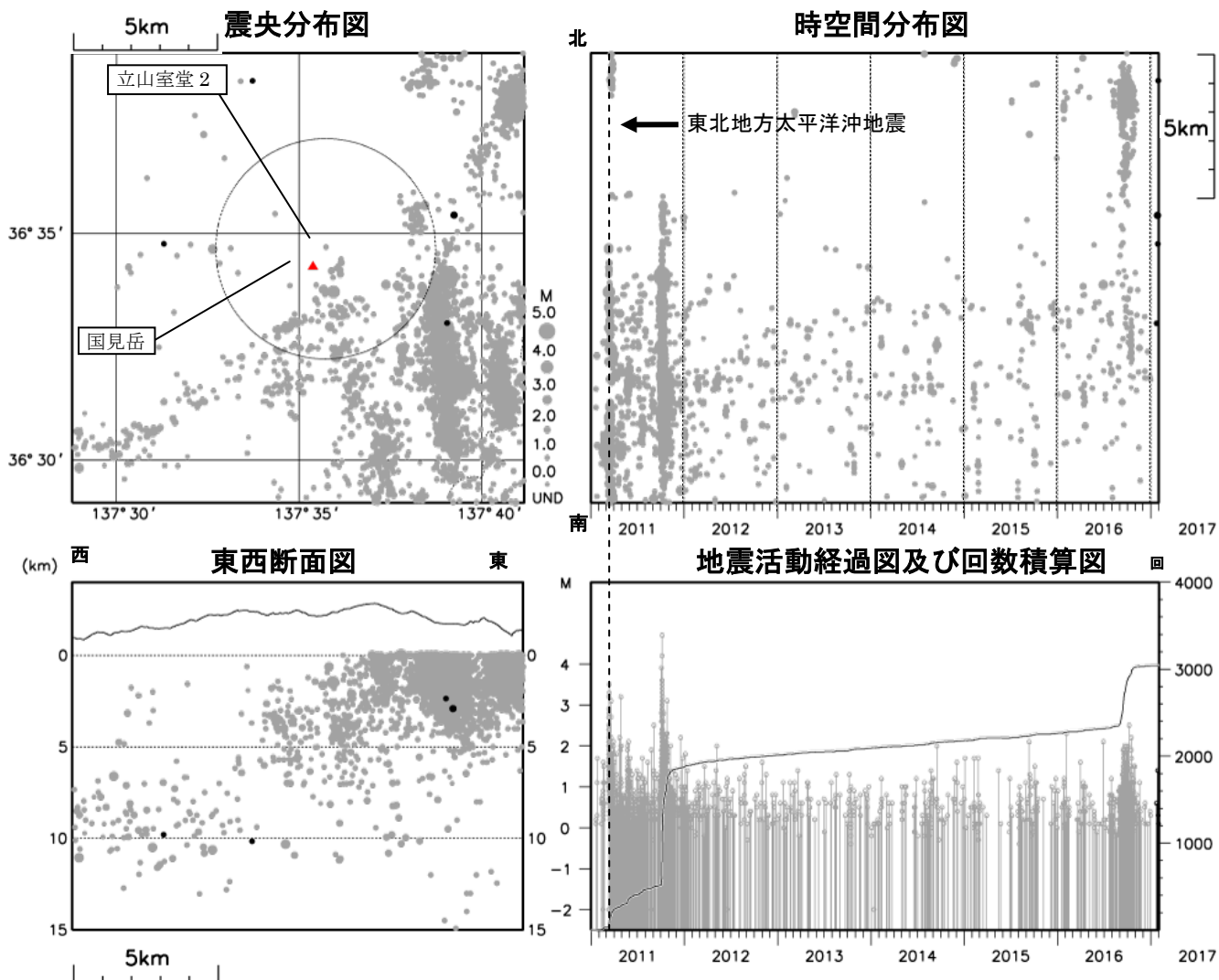
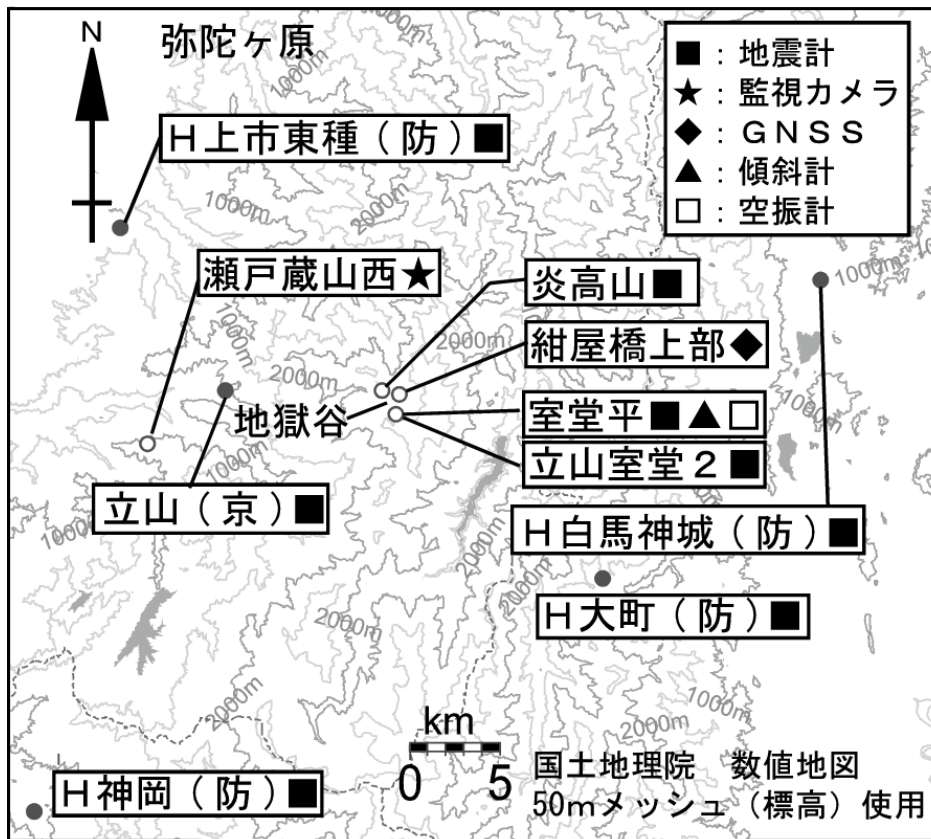


図2 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011年1月1日～2017年1月31日）
 ●：2011年1月1日～2016年12月31日 ●：2017年1月1日～1月31日

- ・ 震央分布図中の円は弥陀ヶ原の計数対象地震（立山室堂2でS-P時間1秒以内）のおよその範囲を示しています。
- ・ 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
- ・ M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
- ・ 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
- ・ 弥陀ヶ原近傍の地震活動は、低調に経過しています。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(防) : 防災科学技術研究所、(京) : 京都大学防災研究所

図3 弥陀ヶ原 観測点配置図